

「森銚三刈谷の会」だより 49(2026/2/21)

発行 2026/2/21 (月刊・メールでの投稿歓迎)
例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銚三刈谷の会
共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu_s@katch.ne.jp



唐来参和 作 ほか『再会親子銭独楽：3巻』, [蔦屋重三郎], [寛政5(1793)]. 国立国会図書館デジタルコレクション 保護期間満了



母の四文銭は子どもの指先の四文銭に話しかけている。政美の絵は四文銭の方形の穴をはっきり見せている。

49:2026/1/17(土) 森銚三 (1934年)「黄表紙作家としての唐来三和」～『再会親子銭独楽』(寛政5年、出版つたや)を読もう No. 2 (参加16人)

森銚三と『再会親子銭独楽』 神谷 磨利子

今回は『再会親子銭独楽(めぐりあふおやこのぜにごま)』の三丁ウラから八丁オモテまでの6場面を読んだ。森銚三は「黄表紙作家としての唐来三和」(『森銚三著作集』第1巻, pp.348-350)で、各場面の内容を紹介し、北尾政美の画が「本文と相俟って興味あらしめてある」と言っている。上の図は一本四文の飴の代として使われた母の四文銭が、姉弟の銭の行方を聞いている場面である。相手は飴を買いに来た子どもではなく、子どもの指先に見える四文銭である。籠の中から身を乗り出すように問いかけている四文銭の姿に、母の情が見える。政美の細かい描写が楽しい。

地口の解説は、鈴木俊幸 編『唐来三和』(シリーズ江戸戯作), 桜楓社, 1989.6. / 長田和也・棚橋正博編『江戸の戯作絵本 4』, ちくま学芸文庫, 2025.9.を参考にした。笹屋(たがや)が独り言に、「大洒落に洒落のめ」して、吉原の町名を掛けた洒落を並べたてる場面では、「笹屋だとも木竹ではあるまいし、このくらひな事は言ひさうなものなり」とある。江戸の職人の日常の言語感覚が分かり、興味深かった。

江戸時代の人々の黄表紙の楽しみ方

河橋 育実

黄表紙の各ページの最初に中国の故事・格言などが書いてありました。当時でも知らない人は知っている人に「どんな意味?」と聞きながら楽しんで読んでい

たのではないかなと想像しました。

NHK「べらぼう」でも、蔦重と手代のみの吉が伊勢に行った帰りに尾張で一膳飯屋に寄った時、居合わせた人たちが黄表紙を囲んでワイワイと話している場面があったと思います。土地の人から「ここの意味がわからない」と言われ、みの吉が説明をすると、「さすが江戸のお人は物知りだね」と尊敬されていた様に記憶しています。そんな風に、当時の人も皆で楽しく読んでいたのかなと思いました。

今回、黄表紙を見ながら私自身も、当時の人たちと同じように楽しい時を過ごせたからです。

「四文」と「四文と出る」「四文芝居」「四文屋」

鈴木 哲

『再会親子銭独楽』(1793)は森銚三と古文書研究会を合わせたようで、興味深い。きっかけは森「黄表紙の作家中[山東]京伝につぐものは参和ならずや」「『再会親子銭独楽』大いによし」「読書記」(1933)である。「四文銭」(3才)を日国(1972-76)で調べた。「しもんぜに」「しもんせん」ともにある。「よんー」はない。四文銭発行は1768年である。

「百て四文のめがでる」(7才)と似た表現に「四文銭百年」(洒落本)があった。「四文」で安酒を意味し、「四文と出る」は軽々しく人の話に口を出すこと、「四文芝居」は木戸銭四文の安芝居、「四文屋」は四文均一の店だそうである。今の100円玉に近い感覚か。

会のために神谷さんは周到に用意されるが、通常はここまでは要らない。関心事についてとっかかりを話していただければ良い。会の感想も一週間をめどに「四文と出」てくださることを希望する。

江戸文化の一端を担った作者の面目躍如

飯田 芳子

唐来三和の「再会親子銭独楽」の二回目の読みに入る。今回は資料として全文の翻刻が吹き出しの諸所に該当するように印刷されてあるのが心強い。

下敷きが『「山椒大夫」と『搜神記』の青蛙の故事に基づく話を結び付け、母子を銭に見立て、それぞれの価値の扱われ方、使われ方が自在な筆で綴られてゆく。種本の良さがそのまま口跡の良い流れとなって語り継がれる。一方、北尾政美の絵は諧謔や洒落（語呂合わせや地口）や風刺を、柔らかい筆致で世俗を描写する事で浮世絵の本来の楽しさを味わうことができ飽きさせることがない。

予定

50 : 2026/02/21(土) : 3 階第 1 会議室 : 『再会親子銭独楽』
を読もう」 No.3

51 : 2026/03/21(土) : 3 階第 1 会議室 : 『再会親子銭独楽』
を読もう」 No.4、絵師・北尾政美（きたお・まさよし）

52 : 2026/04/18(土) : 2 階視聴覚室 : 『再会親子銭独楽』
を読もう」 No.5、〈関連〉森三郎「めぐりあひ」
『赤い鳥』(1934.8)

53 : 2026/05/16(土) : 3 階第 1 会議室 : 『再会親子銭独楽』
を読もう」 No6、David Dykes
〈関連〉坪内逍遙「十銭銀貨の来歴談」(1900)他
Joseph Addison "The Adventures of a Shilling"
(1710)他

54 : 2026/6/20(土) : 募集中、お申し出ください。
